

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 116 号

2021年 4月



第 174 回土湯峠・ブナっ子路雪上観察会

3月20日(土)に第174回観察会土湯峠・ブナっ子路雪上観察会を実施しました。参加者は7名でした。

野地温泉の承諾を得て、野地温泉駐車場に車を駐車させてもらいました。山スキーやスノーシューを装着して、温泉脇の登山口を入ると、もう別世界でした。日程変更の甲斐があり、朝から陽ざしに恵まれ、雪の白と空の青のコントラストを背景に広がるブナ林の光景は、この瞬間でしか味わえない地上の楽園でした。様々な形をしたブナや残雪からのぞいたカエデ類、リョウブ、ウワミズザクラ、オオカメノキ、タムシバなどの冬芽の観察を楽しみながら土湯峠を目指しました。途中ではナナカマドとタカノツメの見分け方も確認しました。

土湯峠からブナっ子路観察路登山口に至る尾根では、個性的な形をしたブナが多くみられ、厳しい風雪とそれでも生命を維持してきた逞しさを物語っていました。峠直下の急斜面でつかの間の滑降と尻セードを楽しみ、大ブナの広場で雪テーブルを作り、昼食タイムです。

昼食後は、多くの古木が残る緩斜面を下りました。ミズナラの巨木やブナの大木の周りに程よく広がる空間が安らぎをもたらします。その一角に、4本の幹が合わさったようなブナがありました。このようなブナは初めてで、何故そのような形になったのか謎のままです。謎解きは雪解け後の楽しみとしましょう。



奇妙な合体ブナ

ブナっ子路の森雪上観察会 伊藤 みどり

お日さまと、冬枯れのブナの森が雪上に描いたモノトーンの世界。早春のぶなっこの森はゼブラゾーンでした。ゆるゆる続く斜面の縞模様を踏んだり跨いたり、カンジキ任せで、ぶらぶら歩く。カンジキの歯が、沈み過ぎず跳ね返らず心地よい。しみ雪でもなく、かた雪でもなく、何雪と言うのだろう。

去年は凶作だったせいか、銀杏より一回りも大きいブナの果実が落ちていた。雪上の落とし物は、実も葉も小枝も雪面に凹みを作っている。根開きと同じように雪を解かしているらしい。ダケカンバの薄皮でさえ微かに沈んでいる。

雪中からニューと突き出た枝に銀色の花芽、タムシバだった。ブナの大木の下で木漏れ日を拾って、ひっそりと強かに生きているという。「もう春だ」とばかり精一杯バンザイしているオオカメノキの冬芽。誰がかじったか、顔の様な丸い花芽が欠けている。

深い雪の上でも湿度は低いのか、ブナの幹に生えた苔が黒く縮れ、触るとフワッと温かい。

見上げると、頭上高く細かい小枝が張り巡らされ、時折ブナの芽鱗が白く光る。緑の屋根に葺き替えられるのもそう遠くないかな。林の外の開けた雪面にブツブツ、雪えくぼを発見、曇が降ったか、太陽の仕業か、春近し。

山頂近くのブナ林は西風の通り道らしく、真っ直ぐ伸びず、樹高も低く、クネクネ曲がった立木の芸術作品の展示場になっていた。「ここで折れ、辛うじて生きてこっちに曲がって」「この幹はこれと合体して、そして」皆それぞれに樹の履歴書作りに没頭する。本人のみぞ知る樹の人生。まさに、風雪に耐え頑張りぬいた異様な姿。滑稽で、涙ぐましく、ひたすら天を目指して生き続ける崇高な姿。樹は偉い。芸術作品なんて言ったら失礼かも。

急斜面の尻滑りで資料を落としてしまった。雪の中から掘り出したら紙がグショグショに濡れ、手がいたくなかった。それまでは寒くもなく、雪が冷たいことを忘れていたのは何でだろう。お彼岸に、彼岸の地を歩いていた様な観察会でした。季節、天気、コース、最高でした、ありがとうございました。何よりも残念なことは、参加者が少なかったこと。

モッタйнаカット！



へこたれないブナ



白と青のコントラストを背景に広がるブナ林



冬芽を観察



峠を目指して



へこたれないブナの遍歴を語らう



尻セード

身体のもものさし4 ～眼（骨と関節の動き）～ 土井 昇

眼球の運動では役割分担があり、右眼は主に動くものを追ひ、速度感を、左眼はレイアウトや色調を切り取っている。つまり右眼は“動”に働き交感神経に呼応して身体を緊め、左眼は“静”を受け持って副交感神経に同調し身体を弛める。これは効き眼がどちらであるかに関係なく働く。

現代は眼や神経系統を酷使する時代であり、多くの人で身体はとても弛みにくくなっている。身体のための疲れよりもダメージ(偏り)が大きく、回復が難しい。診るものとしては、

1. 第三肋骨の右捻じれ
2. 眼の筋膜が上方、内方へ傾く
3. 左眼に掌を触れると、骨盤の偏りと上記 1, 2 が治る

この三点が揃っていれば、どの場所よりも先に眼にアプローチする。吐く息を誘導し、身体を弛めてくれる。左眼に左手、肝臓部に右手を当てていると、息が深くなり眠ってしまう人もいる。

右の肘の痛みで来た人は、X線・MRIの異常なしであちこちを回り、最後に心療内科を紹介されて薬を飲んだが効果なし。調べて眼の系統であることを告げると、白内障の手術をしたので目を触らぬように言う。水をすくうように掌の中央をくぼませて左眼に手かざし、右手は肝臓部に触れて愉氣していくと、水落ちの動きが大きくなり、それから腰部の息がはっきりしてきた。しばらくして楽になってきたというので肘を引っぱてみるとグラグラがとれていて、私も、ビックリしてしまった。眼が息を変え、身体を弛ませて、骨の動きや関節のかみ合わせにも直結していった例だ。

こうした経験はケガにも応用されている。骨折や捻挫などを整復後、眼と患部をを合わせて愉氣しておくと言後ががよい。眼を休ませる養生法も、心身を回復に向ける大切な心得なのである。



視る(土湯)



吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する検討会(書面開催)

2020年度は新型コロナ対策のため書面による開催となりました。各団体からの吾妻山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する意見・要望と、これに対する各団体、関係行政機関と企業の回答は以下の通りです。

各団体からの意見・要望

- ① 植生回復、保護のためには、新たな木道の整備と老朽化した木道の改修が必要
- ② 登山道刈り払い、林道補修の要望
- ③ 西吾妻小屋の改修工事の要望
- ④ 市民団体、市民ボランティア等での作業では、限界があることから関係行政、関係団体の連携強化、関係行政からの経費負担、事業化
- ⑤ 保全作業時のゴンドラ・リフト利用料の負担軽減
- ⑥ 登山道管理者の明確化と貸付け契約の締結
- ⑦ 馬場谷地湿原植生回復モニタリング調査方法の検討(見直し)



1 ネイチャーフロント米沢

・登山道の保全・維持管理は喫緊の課題です。管理者が曖昧なままでは必要な保全の手がかからず、荒廃が進みます。行政間の調整・連携を切に望みます。

・荒廃地の保全のためには、場所ごとの自然環境や人為の加わり方の違いを明確にした取り組みが必要です。(例えば馬場谷地の検討委員会、弥兵衛平の検討委員会のような)そのような検討を要する区域が複数箇所あるのが実態ですので、場合によっては同年度に複数回の検討委員会を開催して場所ごとの保全管理の方策を話し合うべきかと思います。

・馬場谷地のモニタリングの仕方を見直すことについては、個人的には理解できますが、中には、埋め込まれた丸太の撤去まで必要とする意見もあります。このことについても検討委員会の議題にして意見を聞いてみては如何でしょうか。

・ボランティアによる環境保全で最も困難を感じることは、財政負担と県や国などへの許認可申請手続きです。NF米沢では幸い県からの助成金と森林管理署からの資材提供および環境省への許可申請の手続き、そして人的な協力を受けて大変助かりました。しかし公的な助成金を受けると、書類上の手続きや定期的な報告、等々、しっかりした事務局体制がないと継続できません。NPO 法人レベルでないと困難です。国や地方自治体が主管する場合はボランティアも大変やりやすくなります。これは切実な要望です。NF米沢は今年度限りで県からの助成金を受けないことになりました。来年度以降は活動を縮小せざるを得ないのが現状です。

2 高山の原生林を守る会

置賜森林管理署および会津森林管理署の意見はいずれも具体的であり是非実施していただきたいと考えます。

各市民団体の意見と要望も実情を踏まえた具体的なものであり、優先順位をつけて実施計画の明確化、推進役の明確化、といった今まで不透明だった事項を明確化(見える化)して頂きたい。

特に、以下の3 項目については複数の団体の共通した要望であり、優先度が高いと考えますので早急に事業化をお願いします。

1. 大凹から西吾妻、西大巓までの未設置区間の木道の整備
2. 登山道保全と植生回復に関わる専門家による検討会議の設置

3. 関係する民間団体と行政機関で構成されたボランティア募

集組織の構築・西吾妻山地域の植生保全対策に関して福島県側も含めた関係機関・団体の連携が必要



3 株式会社 天元台

⑤保全作業時のゴンドラ・リフト利用料の負担軽減について下記に申し述べます。

【ご返答】

まず、株式会社天元台は、営利法人であることをご理解いただきたく存じます。(中略)索道(ロープウェイ・リフト)、飲食(アルプ)とも施設を整備し安全運行・営業するため従業員を雇用し、定められた営業内容に基づき監督官庁に届出、許認可をいただき会社運営を致しております。

ご要望に、ゴンドラ・リフト利用料の負担軽減とありますが、森林管理署様が公務でご利用になられる際には事前にご連絡などいただき減免させていただく場合がございますが、個々の団体様にご利用になられる場合は通常の利用代金を頂戴するのが基本と考えております。(中略)ただし、ご人数が多い場合など団体割引規定などお使いになれば値引きの対象となります。

(中略)

また、植生回復活動の後援団体とありますが、弊社はそのような依頼を受けたことはない記憶しております。

4 福島県自然保護課

④市民団体、市民ボランティア等での作業では、限界があることから関係行政、関係団体の連携強化、関係行政からの経費負担、事業化

・事業執行者など関係機関と調整して対応したい。

⑥登山道管理者の明確化と貸付け契約の締結

・登山道管理に係る事業実施者と土地の管理が異なることについて、改善が必要であれば協力したい。

・登山道管理者が不在の箇所について、県として新たに管理登山道を増やすことは、人員的にも予算的にも困難な状況である。

5 環境省 裏磐梯自然保護官事務所

・今回指摘のあった登山道あるいは施設については、既に自然公園法の規定による国立公園事業執行認可を行っている路線等が多数含まれている。これらの路線等の荒廃（路線に起因する植生荒廃等含む）については、管理者である国立公園事業執行者において適切に対応されるべきものとする。その上で、事業執行者が行う対策に対し、技術的・財政的支援の検討を行うことは可能である。また、各団体のボランティアにより実施いただいている植生回復作業等について、人的作業協力を行うことは日程が許せば可能。是非声がけをいただければありがたい。

6 会津森林管理署

登山道に関しては管理者を明確にするため環境省、関係自治体と相談し検討してまいりたい。

まとめ（置賜森林管理署）

① 植生回復、保護のためには、新たな木道の整備と老朽化した木道の改修が必要

優先カ所

- ・西大巔～西吾妻山～大凹間
- ・弥兵衛平
- ・山形県が整備した木道で、老朽化している箇所

実施主体

・管理者である国立公園事業執行者が植生回復、保護、木道の新設及び改修について事業化していただきたい。

② 登山道刈り払い、林道補修の要望

・不忘閣跡から藤十郎への登山道の刈り払いについては、登山道管理者が不在であることから、管理者を明確にし、貸付け契約をお願いしたい。（置賜森林管理署意見）

この要望については、米沢市地域再生計画「西吾妻山×天元台高原×白布温泉エリア リボーンプロジェクト」を認定している米沢市で検討をお願いしたい。

・大沢から立岩登山口までの林道補修については、米沢市で検討願いたい。

・立岩から名月湖までは登山道管理者が不在であり、安全面から登山道の廃道を検討願いたい。（置賜森林管理署意見）

③ 西吾妻小屋の改修工事の要望

・管理者である国立公園事業執行者が環境省と公園協議のうえ実施願いたい。

④ 市民団体、市民ボランティア等での作業では、限界があることから関係行政、関係団体の連携強化、関係行政からの経費負担、事業化

①の実施主体に記述したとおりであるが、市民ボランティア等で対策が可能と思われる小規模な保全対策については、関係団体、関係行政と連携して取り組むことで如何なものか。

⑤ 保全作業時のゴンドラ・リフト利用料の負担軽減

株式会社 天元台様のご返答については、止むを得ないものと思われる。また、西吾妻山周辺を観光資源として捉えられていることも事実と思われるので、保全活動への参加協力をお願いしたい。

⑥ 登山道管理者の明確化と貸付け契約の締結

関係行政の担当者間において引き続き協議をお願いしたい。なお、稜線の山形県側に、ごくわずかに無貸付け区間が残っているので、貸付け申請をお願いしたい。

⑦ 馬場谷地湿原植生回復モニタリング調査方法の検討（見直し）

地区ごとの検討委員会を立ち上げてとのご意見もありますが、当署に限らず他の行政においても現状の業務、人員等から現状以上の対応が困難であることをご理解願いたい。馬場谷地のモニタリングに関しては、これまで関わりがある方たちと来年度立会し、今後の調査方法について検討したい。なお、ドローンによる調査は、植生への踏圧から必須と考える。



東北ブナ紀行（76）

奥田 博

奥羽山脈には、優良なブナ林が点在していた。しかし、現実には戦前戦後に伐採が行われて、優良な森の多くは消えてしまった。後白髪山は、そんな伐採現場を眺めるには、絶好な山だ。大東岳は、仙台市民に親しまれている山のひとつだが、標高の割には、長い登降を楽しめる。

117) 後白髪山(うしろしらびげ)1422m

船形山の南側に連なるのが後白髪山で、本当に目立たない山だ。白髪山の東6^{km}ほど離れている。船形山でも無名の山といえる。しかし、中腹には順良なブナ林が広がっている。林道入口から登山口までは、長い林道走行が待っている。この林道こそが、ブナを伐採し、運び出すために開削されたものだ。尾根に乗った所が登山口となる。

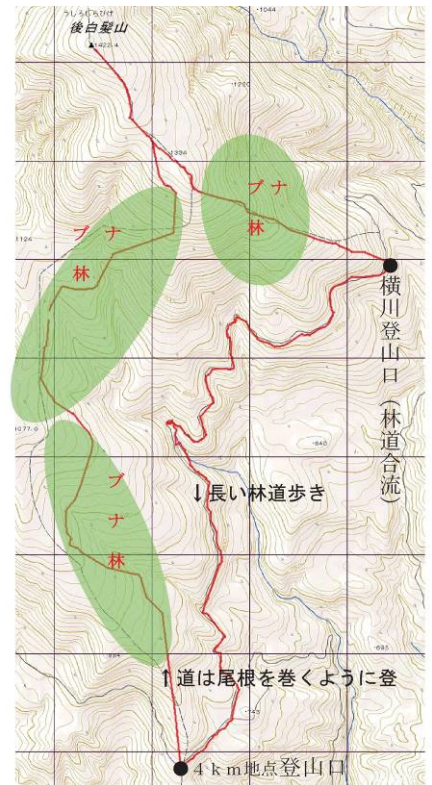
入口近くには「ブナ二次林」という看板が立っている。解説文には「林道起点から4.4kmがブナ二次林であること、昭和10年薪炭用材として、伐採天然更新により二次林が成立」と記されている。天然更新とは、基本的に植林は行わず、自然に任せることを指す。森の中を黙々と登る、といった感



じで標高を稼ぐ。太いブナも随所に見られ飽きさせない。穏やかな登りは、涸れ沢を越えると急坂に差し掛かる。急坂が収まると、木々は矮小化して高度が上がってきたことが分かる。やがて展望の山頂到着となる。

コースタイム: 登山口(3 時間) 山頂(1 時間 20 分) 横川登山口(1 時間 10 分) 登山口

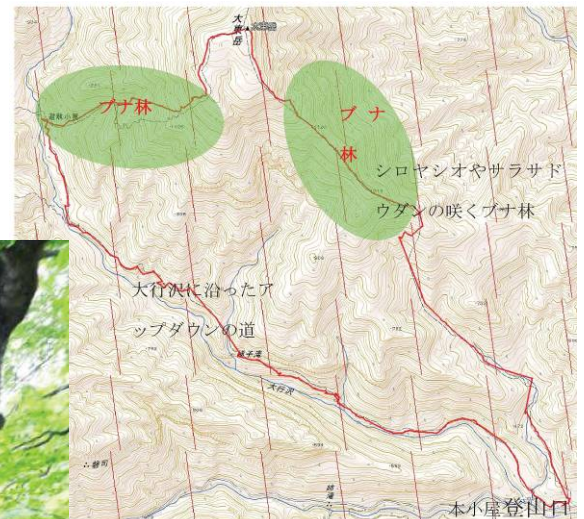
後白髪山の太いブナは、何かを語りかけてくる



118) 大東岳 1365m

遠くから大東岳を望むと、台形をして特異な山頂部を呈している。東北の人間を思わせる鈍重な山容だが、全山がブナ山とは思えない。この山にはロープウェイはおろか、車道も入っていない。意外に原生的な自然が残されており、登り甲斐のある山だ。ブナは中間部から山頂までが、密度は高いが、登山口から山頂までどこでも出合える。登山口からしばらくは沢沿いに進む。沢を離れ尾根に乗り、五合目を過ぎると本格的なブナの森となる。この頃から、シロヤシオとサラサドウダンが目立つようになる。特にサラサドウダンは圧巻だった。

山頂の前後も矮小化したブナが見られるが、急な下りが始まると次第にブナの森が広がる。ブナは大行沢出合の避難小屋まで続いた。若いブナ二次林もあって、適度に人の手が加わったようだ。小屋からは大行沢に沿って長い下りが待っている。



コースタイム: 登山口(2時間) 五合目(1 時間 40 分) 山頂(1 時間 15 分) 避難小屋(2 時間) 登山口

大東岳山麓近くで出会ったブナは、ミズナラとダンスを楽しんでいた

クガインソウ (*Veronicastrum japonicum* オオバコ科クガインソウ属)

吾妻連峰のブナ林の沢沿いの日当たりのよい草地に植生する大型の多年草。クガインソウは九蓋草(九階草 クカインソウ)で、「蓋(がい)」というのは笠を数える単位。輪生葉が九層ぐらいあることからとされる。また、仏像の飾りに使用する「天蓋(てんがい)」が、幾段にも重ねられている様子を連想したとの説もある。飯豊山や南会津の山々、那須連峰、蔵王連峰などの草地で目にするが、吾妻・安達太良連峰ではほとんど見られない。

葉は 4~8 枚が輪生する。葉柄はほとんど認められない。葉身は長楕円披針形で、基部は楔形で茎に直結する。先端は尖り尾状に突出する。葉脈は中肋から伸びた側脈の間に網目状に細脈が走る。葉縁には鋭い鋸歯がある。

花は頂腋生、新梢の頂部と最上段の節の葉腋から穂状の総状花序を着生する。小花は合弁花。花冠は青紫の筒状花で先端は 4 裂する。雄しべは 2 個、花糸は花冠と同色。葯は肌色である。雌しべは 1 個で、白紫色の柱頭が 2 裂する。雄ずい先熟。雄しべの花糸が伸長し、花冠から突き出て開葯を終えた頃に、中央の雌しべが伸長し、花冠から突き出てくる。花は花序の下から上に咲き上がる。

爽やかな青紫色に染まった花の姿は、相似形の輪生葉の姿と相まって独特の高貴さを醸し出している。初見は奥羽山脈花紀行の調査のため訪れた甲子山の崩壊した急斜面であった。青空に突き出た穂状花の強烈な残像が脳裏に刻まれた。その後、登ったいくつかの山で、クガインソウに出会ったが、吾妻・安達太良山系では確認できないでいた。しかし、N氏から情報があり、早速自生地を訪れた。既に雌性期に移りかけていた群落を確認し、よくぞ残っていてくれたとの安ど感に包まれた。



シナノキンバイ (*Trollius shinanensis* キンポウゲ科キンバイソウ属)

吾妻連峰の雪田草原や沢沿いに植生する高山植物。多年草。高山に植生する黄色い花の中でも明らかに大型の花で、遠くからでもよく目立つ。日本固有種。環境省準絶滅危惧種に指定されており、吾妻連峰では植生域が極めて限られている貴重種である。幸いにして沢筋以外の群生地は登山道から隔離されていることが保全に役立っている。同様に吾妻連峰で植生域が限られているミヤマキンバイはバラ科である。

葉は互生。葉は三出複葉で小葉は 3 葉。2 側小葉は 2 つに深裂し、裂片はさらに細かく裂ける。葉の表面は光沢がある。

花は頂生。直立した茎の先端に大型で盃状の花序を形成する。ガクは 5~7 片で形はユキツバキに似た花弁状で黄色が良く目立つ。咲き始めはガク片の維管束の緑色が残る。花弁はその内側に着生し、タンポポの舌状花に似た形状でガクより濃い橙黄色を呈している。花弁の長さは雄しべより短い。花弁は 10 個以上ある。雄しべの葯はへら状で初め緑色を帯びる。花糸は黄色。雌しべは 6 個以上あり、花柱は黄緑色で柱頭は棒状で尖り、黄色である。花柱は果実(袋果)になっても脱落しない。

高山に咲く黄色い花は良く目立つ。ミヤマキンポウゲ、キンコウカ、ミヤマニガナ、ミヤマキンバイ、オゼミズギク、ウサギギクなどが思い浮かぶ。その中でシナノキンバイは目立つことでは筆頭格といえる。黄色は花粉の色と同色で訪花昆虫を引き付けるのに有利との説があるが、どうだろうか、深く追求したことはない。ただ、昆虫目線は人間とは異なるはずである。シナノキンバイは飯豊山初登山で初めて遭遇した。代表的な高山植物であり、雪田が初夏まで残るところでないと出会えない。そのためには当然であるが体力が必要である。まだ、その体力があることにこの上ない幸せを感じる。



第175回自然観察会案内：虎捕山・石田ブヨメキ湿原の植物観察会

日時：2021年4月25日（日）8：30～15：00

集合場所 小鳥の森第一駐車場または霊山子供の村入口「霊山パーキング」

集合時間 8:30(小鳥の森)または9:00(霊山パーキング) 参加定員 20名

内容 阿武隈山地では珍しい湿原の湿性植物を観察し、さらに湿原を抜けて里山の新緑を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：4月23日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

霊山子供の村入口駐車場に、直接行かれる方は申込時にお知らせください。

第176回自然観察会案内：半田山・スミレと春の林床植物観察会

日時：2021年5月5日（水）8：00～15：30

集合場所 小鳥の森第一駐車場または半田山公園駐車場

集合時間 8:00(小鳥の森第一駐車場)または8:45(半田山公園駐車場) 参加定員 20名

内容 半田山公園を起点に山頂を経由して周回し、初夏の半田山自然林の林床植物と新緑を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代(500円)、申し込み：5月3日(月)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

半田山公園駐車場に、直接行かれる方は申込時にお知らせください。

西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF 米沢と共同：詳細は佐藤守まで)

ロープ設置作業の一般公募を継続します。公募は天元台側とデコ平側に分けて募集します。

1. 実施日：今回も平日にガイド協会の支援を頂けることになりましたので西大巓鞍部は平日に実施します。

作業山城：西大巓鞍部

2021年6月14日(月)6時30分～16時00分(雨天時6月16日(水)に順延)

作業山城：天元台－西吾妻小屋

2020年6月19日(土)6時30分～16時00分(雨天時6月20日(日)に順延)

天元台湯本駅からのロープウェイ・リフト代(往復3800円)は自己負担になります

2. 定員：10名(山岳での行動において自己管理のできる方)

3. 内容：各山城の登山道誘導ロープの設置作業を行います。

4. 集合場所：四季の里交差点正面入口駐車場6時30分または事前連絡により14日はグランドコススキー場駐車場8時00分、19日は天元台湯元駅7時30分

5. 申し込み：6月5日(土)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後7時～9時でお願いします)。

新型コロナウイルス感染を避けるため観察会、ボランティアに参加される方は以下の点に留意してください。

- ・ 自宅を出る前に検温をお願いします。
- ・ 体調の悪い場合は、無理しないでキャンセルの連絡をください。
- ・ マスクをご持参願います。

振込による会費の納入は、郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第116号 2021年4月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP:<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188(夜間7時～9時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(1000円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田